

令和7年度第2回みんなでまちづくり推進会議 議事概要

日時：令和7年5月9日（金）18：30～

場所：境港市保健相談センター 講堂

出席 松本幸永（会長）、三原真由美（副会長）、足立勲、池淵匠、遠藤緑、舩岡彩子、
松田真二、宮本剛志、吉田明広、（9名・敬称略）

欠席 河岡雅、丸山誉覚、安原真弓（3名・敬称略）

事務局 浜田潤（総合政策課長）、梅谷俊一（同課政策企画係長）、足立麻優子（同係主事）

1 境港市民活動推進補助金審査

（1）境港市民音楽祭実行委員会 「第3回境港市民音楽祭」

（2）境港サーフレスキューチーム 「水辺における安全活動」

（3）平和のための戦争展境港市実行委員会 「第11回平和のための戦争展」

⇒（1）～（3）は、継続事業のため、プレゼンテーションは省略し、欠席委員も含めた事前の書類審査で採択と決定した。

（4）境港市立外江小学校 PTA 「しらおの森は花いっぱい」

（5）境港市立余子小学校 保護者と先生の会 「花いっぱい運動」

（6）鳥取県立境港総合技術高等学校（ボランティア同好会） 「花いっぱいふれあい事業」

（7）竹内マツ植樹隊 「松・桜の苗木の購入及び植樹事業」

⇒（4）～（7）は、緑化事業のため、プレゼンテーションは省略し、欠席委員も含めた事前の書類審査で採択と決定した。

2 第9期取組テーマについて

（1）事務局説明【資料9】

- ・第9期の取組テーマの再確認、過去の協議内容や主な協議事項について説明。
- ・市民活動推進補助金は、多くの市民がつながり、市民活動に関わりをもってもらい、「みんなで」まちづくりしていくための大きなツールであり、この補助金制度の見直しに取り組み、協議を進めてきた。
- ・前回(3/26)の会議では、補助金交付団体による市民向けの報告会を開催する事について意向調査することとし、過去2年間に一般事業で活用した11団体に照会し、7団体から回答があった。結果は、参加希望ありが4団体、参加希望なしが3団体だった。

（2）意見交換

○書類（申請書など）の簡素化について

- ・今の申請書は分量が多く、審査する側も大変なため、見やすく分かりやすい形に変えた方がよい。（委員）

○審査方法（採点方法、審査基準、プレゼンの有無）について

- ・これまでの審査の中で、満点の30点に対して11点のように点数差が大きいものがあった。なぜ、その点数をつけたのかの理由を委員が共通理解する必要がある。（委員）
- ・そもそもの基準が、主観的な判断基準のため仕方ないところはある。（委員）
- ・金額の大きいものは、その点数をつけた理由を書くのはどうか。10点以下などの極端に低い点数をつけるということは、それなりの理由があると思うので、審査表のコメント欄などに理由を記載してほしい。（委員）
- ・理由まで書くと、審査を無記名とする意味がなくなるため、公平性が損なわれるのでは、と思

う。(委員)

- ・補助金額に差があるため、金額の大きいものは厳しめに採点している。逆に、活動されている方の思いが感じられる時は甘くなる。(委員)
- ・匿名でなくても、責任をもって点数をつけている。(委員)
- ・金額で心が動いてしまうところはある。金額の小さいものはそこまでしなくても良いと思うし、区別をつけたら良いと思う。(委員)

○補助金の回数制限について

- ・補助金を通じて色々な市民活動を広げてほしい。多くの人に利用してもらうために、将来的には自立していかないと予算にも限度がある。(委員)
- ・この補助金がないと、継続できない団体は困ると思う。(委員)
- ・自己資金があまりない団体も少なくない。(委員)

○補助金の周知方法について

- ・補助金をPRするシールや看板を作成し、現場での掲示を義務付けしてはどうか。(委員)
- ・周知の場として、報告会は開催した方が良い。(委員)

○報告会の開催について

- ・参加希望ありで回答した団体は、活動の規模が大きい団体だと思う。(委員)
- ・集まった人に補助金の周知ができるし、同じような思いを持った仲間を増やす良い機会になる。(委員)
- ・ぜひ報告会をやってみたら良いと思う。参加希望なしと回答した団体も、ハードルが高いと考えている可能性があるため、実際に参加してみたら考えが変わるかもしれない。(委員)
- ・開催するなら、みなとテラスの方が人も来やすくて良いと思う。(委員)

○その他

- ・何十回も補助金を活用していて、1度も不採択になったことがない団体は信頼できるため、そういう団体を会議から推薦して、市が予算化するのも1つの形ではないか。(委員)
- ・そうすると、また別の審査が必要になる。(委員)
- ・事業の公共性が大事で、色々な観点があっても良いと思う。(委員)